

# 地震時でも最低限の汚水の処理機能を確保 (奈良県大和郡山市)

事業者：奈良県

施工前



施工後



大和川上流・宇陀川流域下水道第一処理区の放流渠

(可とう継手により、接合部の可とう性（柔軟性）が増し、地震による地盤の変動や変位に柔軟に追随することができる。)



**対策名：** No.12 全国の下水处理場等の耐震対策等に関する緊急対策

**事業名：** 奈良県浄化センター放流渠耐震工事

- ポイント**
- 3か年緊急対策により下水処理場の耐震対策を前倒し実施
  - 地震時においても最低限の汚水の処理機能を確保

## 地域の概要・課題

大和川上流・宇陀川流域下水道の第一処理区は奈良県内の6市8町約67万人の汚水を広域的に処理している下水処理場です。

当処理場は、奈良県で最も大きな能力を有する施設であり、南海トラフ巨大地震や活断層による直下型地震による災害に備えて、地震時においても汚水の処理機能を確保するための耐震対策が必要となっていました。

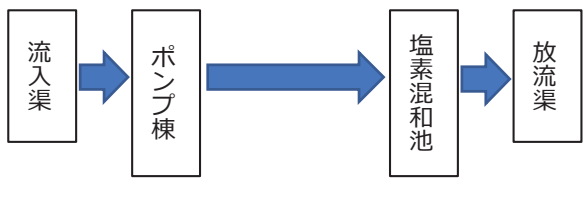
## 事業の概要

地震時に機能停止した場合の社会的影響の大きさを踏まえ、3か年緊急対策として事業を前倒して実施することとし、消毒施設や放流渠等の耐震化により地震時における最低限の処理機能を確保しました。

## 【見込まれる効果】

消毒施設、放流渠の耐震化により、地震時における最低限の処理機能に必要なルートが確保され、被災地域の衛生環境の保持に寄与します。

### 地震時における最低限の機能確保ルート



### (参考) 通常時の処理機能ルート

